

2022年08月10日（水）

「水曜サロン with 赤堀会長」第3期 第2回（通算第32回）

新しい情報科のねらい

鹿野 利春氏（京都精華大学 教授）

1. 内容

- ・情報科の検討過程、変更内容
- ・情報Ⅰのサンプル問題（問題の発見・解決/情報デザイン/プログラミングデータの活用）
- ・教材や研修体制の準備

2. 所感

鹿野先生、ありがとうございました。情報Ⅰは、国民全員の基礎素養、情報と情報技術を問題の発見と解決に活用するための科学的な考え方等を育成する科目。クローズアップされているのは高校の情報科ですが、小・中学校のプログラミングや統計、図画工作・技術・家庭から大学の数理・データサイエンス・AIまでつながっていること、また、情報Ⅰで学んだことを、数学・公民や総合的探究など他教科連携で活用することなど、全体の構図を学ばせていただきました。プログラミングの入試問題サンプルは、ここまで国民的素養なのかと思いましたが、今の実社会において、これを経験しているのとしていないのでは、創る立場、利用する立場のどちらであっても、大きな差が出ると改めて感じました。また、教材や研修などの準備も進んでおり、情報科の教員研修に関する文科省の特設ページやそれ以外の研修リソース、一般社団法人の活動のご紹介もいただきました。

質疑では、情報の免許を持った先生も多くなく、この分野の進歩は激しく、情報のプロパーでないと教えることが難しいのではないか？という話題になりました。先生の役目は教えることなのか、学びを準備すること、やる気になってもらう環境を準備することが大切。先生が全てを教えるのではなく、生徒同士の教え合いや学び合いがあっても良い、子どもたちが学ぶための教材は準備しているので生かして欲しい。また、現場の認知や準備が追いついていない、分断や対立も生じている状況も共有いただきました。

ふと思いましたが、この状況こそが、外部リソースや動画教材の活用を含めて、学習者の主体的な学びへのチャンスなのではないでしょうか。国家的課題であるDX人財の育成、国民全員の基礎素養の獲得に向けて、素晴らしいお話、質疑の時間であったと思います。ありがとうございました。

以上